

## 遺伝子組換えパパイヤについて

### 1 パパイヤの基本的な特徴

パパイヤは、パパイヤ科パパイヤ属の常緑植物（年間を通じて葉が見られる植物）で、原産地はアメリカ大陸の熱帯地域と言われている。

茎（幹）の頂上部に大きな葉が多数つき、その根元に花が咲き、受粉、肥大してパパイヤ果実となる。果実は生食や加工に用いられる。

パパイヤの栽培は熱帯及び亜熱帯地域で行われており、主な生産国はインド、ブラジル、ナイジェリア等である。我が国においては、沖縄県、鹿児島県及び宮崎県で栽培が行われている。

我が国に対するパパイヤの主な輸出国はフィリピン（約8割）、米国（ハワイ）（約2割）である（平成21年 農林水産省植物検疫所調べ）。



（栽培中のパパイヤ）



（パパイヤの果実 目盛り幅は左から1cm、5cm、10cm）

### 2 遺伝子組換えパパイヤについて

米国において、パパイヤリングスポットウイルス（PRSV）※に耐性を示す遺伝子組換えパパイヤが開発され、平成10年よりハワイにおいて商業栽培が開始された。平成21年現在、ハワイにおけるパパイヤの作付面積のうち、本組換えパパイヤが占める割合は77%となっている。

※ このウイルスがパパイヤに感染すると、果実にはっきりとした輪点（リングスポット）ができる。また、茎の生育が遅くなり、葉にモザイク症状や白化症状が出、果実の肥大が悪化し、糖度や収量が低下するなどの症状が現れる。



（PRSVに罹病したパパイヤの写真）

（出典：農林水産省ホームページ）